

総務委員会速記録第三号

2016年3月16日

出席議員 十五名

委員長	加藤 雅之君	おときた駿君	小磯 善彦君
副委員長	新井ともはる君	まつば多美子君	秋田 一郎君
副委員長	柴崎 幹男君	木村 基成君	清水ひで子君
理事	石川 良一君	大場やすのぶ君	欠席委員 なし
理事	徳留 道信君	近藤 充君	
理事	鈴木 隆道君	小山くにひこ君	

出席説明員

政策企画局	局長理事兼務	川澄 俊文君	報道担当部長	松下 明男君
	外務長	水越 英明君	計画部長	小室 一人君
	次長理事兼務	潮田 勉君	計画担当部長	梅村 拓洋君
	理事	松下 隆弘君	外務部長	横山 英樹君
	総務部長オリンピック・パラリンピック調整担当部長兼務	小池 潔君	都市外交担当部長	角南 明彦君
	調整部長	中澤 基行君	国際事業担当部長	梅田 弘美君
	政策担当部長	西坂 啓之君	青少年・治安対策本部 本部長	廣田 耕一君
	政策担当部長	八嶋 吉人君	総合対策部長オリンピック・パラリンピック調整担当部長兼務	廣瀬 秀樹君
	技術政策担当部長	加藤 直宣君	青少年対策担当部長	稲葉 薫君
	戦略広報担当部長政策担当部長兼務	小沼 博靖君	治安対策担当部長	村山 隆君
海外広報担当部長	川崎 卓君	人事委員会事務局 局長	藤田 裕司君	
渉外担当部長	佐藤 直樹君	任用公平部長	津国 保夫君	
国家戦略特区推進担当部長	山本 博之君	試験部長	森山 寛司君	
渉外担当部長政策担当部長兼務	村岡 教昭君	審査担当部長	小澤 達郎君	

本日の会議に付した事件

人事委員会事務局関係

- 予算の調査(質疑)
 - ・第一号議案 平成二十八年度東京都一般会計予算中、歳出 人事委員会事務局所管分
- 付託議案の審査(質疑)
 - ・第三十七号議案 東京都人事委員会委員の給与等に関する条例の一部を改正する条例

政策企画局関係

- 予算の調査(質疑)
 - ・第一号議案 平成二十八年度東京都一般会計予算中、歳出 政策企画局所管分

青少年・治安対策本部関係

- 予算の調査(質疑)
 - ・第一号議案 平成二十八年度東京都一般会計予算中、歳出 青少年・治安対策本部所管分
- 付託議案の審査(質疑)
 - ・第二十八号議案 東京都青少年の健全な育成に関する条例の一部を改正する条例
- 報告事項(質疑)
 - ・第十次東京都交通安全計画(中間案)について
 - ・改定東京都自転車安全利用推進計画(中間案)について

石川委員 東京のグランドデザイン検討委員会についてお伺いいたします。

中長期の将来を見通しながら行政計画を策定する作業は、いうはやすし行うはかたしの部類に属するなかなか難しい作業だろうと思っております。行政計画でありますので、制度が大きく変わってしまえば実現不可能ということになるわけでありまして、また、全てが固定的なものを前提とするということとは変化に対応できないわけでありまして、そういう意味でも、難しい課題に挑んでいるわけでありまして、二〇四〇年代のグランドデザインに挑戦をしている職員の皆さんに改めて敬意を表する次第でございます。

現在、四回目の東京のグランドデザイン検討委員会が開催され、知事は毎回、冒頭に挨拶をされて、そして、会議に最後まで参加をされて意見交換もされているわけでありまして、大変お忙しい身でありながら、情熱を持って取り組んでいる様子が見え、うかがえるわけでありまして、

そんなことがあって、私も第四回目の検討委員会をぜひ傍聴させていただきたいということで、本庁舎の七階まで足を運んだわけでございますけれども、残念ながら断られてしまったわけでございます。この傍聴の件については、予算特別委員会の質疑で、今後引き続き検討していくということになっておりますので、今後にまつといたしまして、四回の検討委員会の資料と会議録を見ますと、知事が、私たちは間違いなく後の歴史に問われる場所に立っていると発言をしておりますように、新進気鋭の有識者を招き、非常に刺激的な議論が交わされていることが推察をされるわけでありまして、

特に、今後グランドデザインを担っていく、あるいは影響を受ける若い世代の人たちにとって、非常に有意義な内容が含まれているわけでありまして、価値のある内容ばかりだというふうについてもいいのではないかなというふうには私は受けとめているわけでありまして、

検討委員会における有識者との議論をもっと積極的に発信、周知をしていくべきというふうには考えますが、見解をお伺いいたします。

小室計画部長 東京のグランドデザイン検討委員会では、大局的な見地から二〇四〇年代の東京のあるべき将来の姿を描くため、幅広い分野の有識者や専門家を招いて議論を展開しており、先進的なアイデアをいただいております。

委員会での有意義な情報は、若者を初め広く世の中に共有することで、さらなる議論の展開にもつながることから、報道機関やホームページを通じて発信しております。

今後とも積極的な情報発信に努めてまいります。

石川委員 四回目などをちょっと紹介させていただきますと、ビジネス創発都市Tokyoということで、貨幣が静から動にこれから動いていくんだ、転換をしていく、デジタル通貨や仮想通貨の時代がやってくる。あるいはまた、物の所有からシェアリングの時代、価値の移転というような考え方に発想が転換をされていく時代に入っていく。さらにはまた、具体的な話ですけれども、車なども、自動運転のタクシーの時代で、ロボタクシーの登場がもう三十年ということになると想定される、さらには観光タクシー化が東京でも進んでいくことになるだろう。あるいはまた、空き家の対策などとしても、空き別荘をこれからはシェアリングをしたり、地域では地域住民のさまざまな事業の拠点になったり、あるいは法人等々が活用したり、さまざまな活用の方法が考えられるのではないかな等々、これは毎回ごと、本当に刺激的な内容が含まれているわけでありまして、次代の時代を担う若い人たちが大いに触発をされるのではないかなというふうには思っているわけでありまして、

創業支援のための資金や経営の支援も大変重要なわけでありまして、検討委員会の議論などは、創業を考えている若い人などにとっては極めて有意義なものではないかと思っております。インキュベーションの一環として位置づけられるのではないかと思っております。

ホームページの発信に限定せず、議論を尽くすためには、まだ二年ほどの時間もあるわけでございますので、検討委員会の内容を情報発信する工夫をしていただくことをお願いしておきたいと思っております。

東京のグランドデザインを考えるときに、統治機構を今後どうしていくのかという改革に取り組む必要性を感じざるを得ないわけでありまして、いわゆる道州制の問題というような大がかりな制度論だけではなくて、人口減少、超高齢化、世帯の単身化等によるコミュニティ維持の困難さなど、将来を展望するときに、自治体のあり方も大いに変化をしていくことが想定されると思っております。

昨年秋に、私は総務委員会で、市町村合併の必要性も発生することにも触れさせていただきました。また、予算特別委員会でも、区市町村合併に前向きに取り組むべきだというような質疑もあったわけでございます。

特に人口が、都心部から離れた地域では人口減少社会に突入をしており、西多摩地域は顕著といえるわけでありまして。いわゆる行政サービスの維持をしていく単位を考えても、多摩地域が最も早くこの人口減少にさらされることになり、諸課題に直面することになり、もう町村部が始まっているわけでありまして、二〇四〇年代をにらんで多摩の課題を議論する機会が必要というふうには考えるわけでありまして、

今後の東京のグランドデザインにおいて、多摩を対象として、多摩・島しょのグランドデザインを検討していく必要があるのではないかなというふうには考えるわけでございますけれども、見解をお伺いいたします。

小室計画部長 東京のグランドデザインは、二〇四〇年代の東京のあるべき将来像を描くもので、生活の姿や都市の姿にも着目した幅広い検討を行っております。

東京の将来を描くには、お話の多摩地域を含む各地域の課題や特性を踏まえた検討が必要であると考えております。

石川委員 グランドデザインと東京都の長期ビジョンは、二〇四〇年代と十年後の東京に絞った計画として相補っているわけでありまして。一方で、多摩については、新たな多摩のビジョンと新たな多摩のビジョン行動戦略が策定をされており、十一年計画となっているわけでありまして。長期ビジョンの中にも、グランドデザインとの相補性と同じように、多摩のグランドデザインと新たな多摩のビジョンが相補性をなす計画とする方がわかりやすいのではないかなというふうには考えます。多摩で重点化をすべき施策も明確になるのではないかなと思っております。

本当に幅広い議論が今後も展開をされることを期待しているわけでありまして。その中で、多くの人が共有できる課題を明らかにし、その解決のための施策を計画化していくことになるのではないかなと思っております。

東京のグランドデザインの策定に向けて、今後どう取り組んでいくのか、お伺いいたします。

小室計画部長 昨年六月以降、これまで東京のグランドデザイン検討委員会を計四回開催し、幅広い分野の有識者、専門家を招いて自由闊達な議論を行ってまいりました。

来年度は、データや参考資料の収集や分析をさらに進めるとともに、検討委員会の意見や提案も参考にしながら、引き続き東京のグランドデザインの策定作業に取り組み、平成二十九年度ごろの公表を予定しております。

石川委員 二十九年度ごろという、ごろが入っているわけでありまして、時間的に多少余裕を持たせているのかなということで、このことも非常に大事なことでありまして、

知事が語っておりました、後の時代に問われたときに、賢明な計画のもとに都は事業を推進してきたんだと評価をいただけるような、長期的で、しかも世界一の都市といえるような高い目標を持ってグランドデザイン策定に取り組んでいただくことをお願いいたします、質問を終わります。